

回復ペースがやや鈍化した米中景気

ポイント① 予想を下回った中国の生産、小売

8月14日に発表された7月分の中国の鉱工業生産指数は、前年同月比+4.8%と6月と同じ伸びとなりました。また、+5.0%程度という事前の市場予想のコンセンサスを下回りました。一方、小売売上高は7月には同-1.1%と6月の-1.8%からマイナス幅は縮小したものの、市場予想の+0.1%を下回り、マイナス圏に留まりました。

中国は新型コロナウイルスの感染拡大を他国よりも早く抑制することに成功し、4-6月期の実質GDP（国内総生産）は、欧米などで大幅マイナス成長となる中、いち早く前年同期比プラス成長に回復しました。しかし、感染再拡大の懸念や、雇用、所得への不安などから個人消費関連需要の回復が遅れ、景気回復ペースがやや鈍化したように見受けられます。

ポイント② 米国小売売上は伸びが鈍化

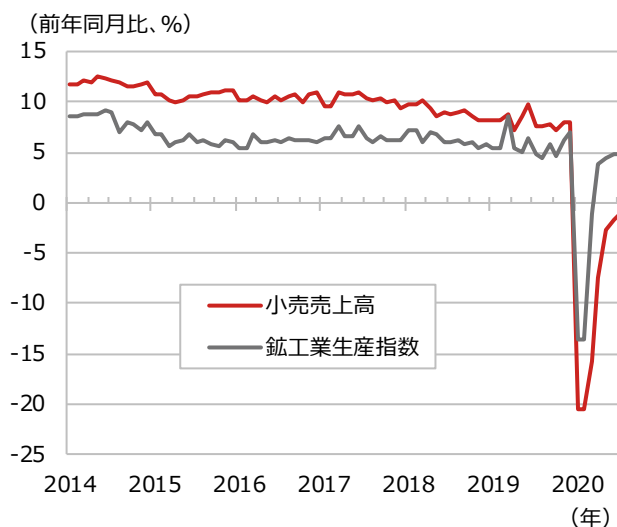
同日、米国でも7月分の鉱工業生産指数と小売売上高が発表されました。鉱工業生産は前月比+3.0%と市場予想と一致し、3ヵ月連続して増加しました。小売売上も3ヵ月連続で増加しましたが、前月比+1.2%と市場予想の+2.1%を下回ると共に、6月の+8.4%から大きく減速しました。新型コロナウイルス感染再拡大により、一部地域で経済活動の再開が遅れていることの影響が出た模様です。

ポイント③ 追加景気対策に注目

米中とも景気回復ペース鈍化の兆候に対して、金融・財政両面からどのような追加景気対策を打つかが注目されます。中国当局はインフラ投資の促進に注力しているようです。米国では大統領選挙まで3ヵ月を切る中、早期の景気回復はトランプ政権にとって大きな課題となっています。

図1：中国の鉱工業生産指数と小売売上高

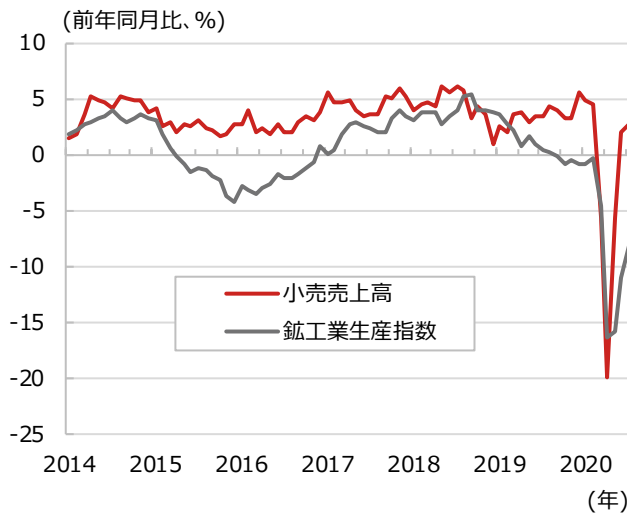
期間：2014年1月～2020年7月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国の鉱工業生産指数と小売売上高

期間：2014年1月～2020年7月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント

8月27、28日 ジャクソンホール会議（オンライン開催）
8月28日 米個人所得、米個人消費支出（7月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。